

◆企画広報室より

企画広報 薄井 桃子

早いもので今年度ももう3月です。

皆さんにとって、今年度はどんな1年だったでしょうか？26年度入学した皆さんは、中村学園での新たな生活がスタートし、毎日が新しいことの連続だったのではないのでしょうか。そして、今年度卒業される皆さんは、学校生活はこれで終わりますが、社会に出てからも中村学園の卒業生としての自信と誇りを胸に、それぞれの舞台で活躍できることを心から願っています。在学生の皆さんは、春休み中にこの1年を振り返り、4月から新たな目標に向かって更なる飛躍の1年にしていきたいと思います！

さて、4月からは新入生が中村学園の仲間入りをします。夢と希望を膨らませて入学してくる新入生の皆さんを“笑顔”で温かく迎えてあげてほしいと思います。また、頼れる先輩として、後輩が相談しやすい雰囲気をつくってあげてくださいね。

また、中村学園では、最後まで進学したい受験生をサポートしていきたいと思ひます。下記の日程でオープンキャンパスや入学選考を開催しますので、高校の後輩や身内等で情報系や福祉系分野を希望している方がいらっしゃいましたら、是非案内をお願いします。

『なりたい自分』を実現して、各業界で活躍する先輩たちが作り上げてきた中村学園を、みんなでさらに盛り上げていきましょう！

■入学選考日程 [ 特待生選考、一般選考、自己推薦選考、  
社会人選考、留学生選考 ]

第5回入学選考 3月18日(水)  
最終入学選考 3月27日(金)

※出願は各選考日前日の15:00までです。

■学校・入学選考説明会 開催日程

3月 3日(火) 17:00~18:30  
8日(日) 10:00~12:00  
11日(水) 17:00~18:30

※保護者対象説明会、  
学費等納付金・奨学金説明会同時開催※

今年度最後の入学選考です！  
ご参加お待ちしております！



◆「第一印象」から勝負！

進路室 橋野 幸男

来る4月5日、「大相撲・富士山静岡場所」が、県草薙総合運動場・新体育館「このはなアリーナ」の「こけら落とし」を祝って、開催されます。この巡業を特集した『静岡新聞』(2015.2.14・別刷)に、静岡県出身で唯一、大相撲の部屋を構える東関親方のインタビュー記事が掲載されています(元・潮丸。先代から部屋を継承。36歳、静岡市葵区出身)。

「親方という仕事のやりがいは？」と聞かれた同親方は、次のように答えています。

「… 力士の大成できる条件は、成績と人柄。極端な自信家はいけません。素直に人の言うことを吸収できる弟子が欲しいですね。体が大きくても、学業を続けたくないという気持ちだけで入ってくる力士は、長続きしません。新弟子を集めるとき、第一印象で大体どんな人物か分かります。言葉(ことだま)という言葉のとおり、その子の発する言葉からも人柄が伝わってきます。… / 15歳で入門してくる力士が多いのですが、まだ社会に染まっていないので育てがいがあります。まずは、あいさつ、返事をしっかりとさせることから始まります。…」

かつての政府系金融機関勤務時代(本店・調査部で景気調査を担当)に、人事部から新卒採用の面接担当や、「内定者懇談会;先輩を囲んで」のゲストを依頼されました。事前打合わせで、「第一印象だけで判断しないでください。重箱の隅をつつくような質問や、矢継ぎ早の質問はダメです。しゃべる割合は、こちら:学生=3:7を目安にし、『はい・いいえ』で答えられるような質問は避けてください」等など、「面接のルール」なるもののレクチャーがありました。しかし、そう説明する人事部のスタッフたちは、「第一印象で人を判断できる」という自信を持ち、相手の「フルネーム+第一印象」を自分の頭の中の「人事データ・ベース」に叩き込んでいくような人種でした。

私自身は「名前を覚えるのが不得意。第一印象が弱い」のですが、学生には「入室・名乗りは、フレッシュ = 丁寧+スピーディに、張りのある声で」とアドバイスしています。

以下では、「第一印象」の大切さについて、いくつかの根拠を紹介します。

= 2秒。第一印象は、正しい。一瞬ですべてが伝わる =  
【佐藤綾子『非言語表現の威力 ~パフォーマンス学実践講義~』(2014.7発行) などから】

佐藤氏が「AS 2秒の表情実験」として発表しているもので、「2秒間、表情を見るだけで、その人の感情・性格や人柄などを読み取ることができ

る」という内容です。実験では、観察対象7人の簡単な自己紹介を、ビデオカメラで収録。映像は顔が中心で、手足の動きなどは映していません。その映像からすべての音声要素を抜き、2秒間だけ被験者に見せます(集中して見るように指示。これまで約3,000人)。そして、対象者の特徴について、「明るい」「暗い」「怒りっぽい」「根性がある」「まじめ」「有能」など36の選択項目から、上位3項目に○印を付けてもらう、というものです。

驚くべきことに、被験者たちはたった2秒間で、7人全員の個性をほぼ正確に見抜いているのです。更に、映像を5秒、10秒に延長しても、その結果は変わりません(そのデータ例は、『日経ビジネス[アソシエ]』2013.12号、同氏「あなたは、見られている」。10の数字で学ぶ、信頼を得る動作学」で紹介されています)。瞬間の「第一印象」で読み取った情報を、人はなかなか訂正しない、ということです。

= 「第一印象」が決まるまで6分。  
面接を続けても「変わらない」が61% =  
【『日本労働研究雑誌』2014.9号、西山昭彦「就活で求められる能力」から】

次は、「相手に会った初めての評価、つまり『第一印象』といわれるような段階で、相当、評価が決まる」という仮説のもと、人材紹介会社23社の面接担当者(中途採用の面接)を対象に実施したヒアリング、アンケート調査の結果です(なお、対象は新卒ではなく中途ですが、面接時の評価は双方で似ている点も多く、この結果は新卒にも相当程度に妥当する、としています)。

それによると、面接での評価は、「面接会場に入った瞬間から初めの質問への応答まで」で75.8%が決まっている。その第一印象が決まるのに要する時間は、平均して6分。面接を続けても第一印象での評価が「変わらない」が60.8%、「変わる」は17.5%で、第一印象で失敗すると挽回するのは難しい。

また、「第一印象のみで何が分かるか」という問いでは、「人柄」85.2%、「常識度」78.1%、「転職への意欲」66.9%が高い数値となっており、以下、「企業面接の可否」56.2%、「頭の良さ」53.1%、「向いている仕事」49.6%などとなっています。

就活中の学生や、間もなく活動が本格化する次年度卒業予定者の皆さん、「第一印象」の重要性に留意してください。自信をもって第一声の挨拶から好印象を演出できるためには、十分な「自己理解+企業・施設分析+現代社会認識」が必要です。そして、「挨拶」から始まる本学「全人教育」の成果を、存分に発揮してきてください。

## ◆IT業界セミナーを受講して

ICT情報システム学科長 鈴木 正章

1月16日(金)に、株式会社スピードリンクジャパンより2名の講師を招き、「IT業界の、あなたが入社3年後、活躍できる企業の見極め方」というテーマで、1年ICT情報システム学科の学生達が学内でセミナーを受講しました。

最初に、学生達が自分のキャリアプランについて考える機会を与えて頂きました。入社3年度どうなっていたいのかについて、自分で考え、それを全員の前で発表しました。他の学生の意見を聞く事で新たな気づきも得られた体験でした。

次に「就活ツールのメリット・デメリット」について議論する場を与えられました。インターネットの就活支援サイトの良し悪しや、他の就活方法についても知る事が出来ました。

最後に、企業紹介をして頂き、新しい事には積極的に挑戦していく若く勢いのある企業である事がわかりました。

学生諸君にとって、これから始まる就職活動に向けて大変有意義な経験となりました。

1年 ICT情報システム学科 油井 椋介

先日、先輩の内定先でもある、株式会社スピードリンクジャパン主催の「IT業界セミナー」を受講する事が出来ました。

私は今まで情報系の企業は、とても固いイメージしか無かったのですが、仕事をやる時は徹底的にやる、遊ぶ時は遊ぶ、というしっかりケジメが付いている点が魅力的でした。

また、SES(システムエンジニアリングサービス)といった制度で、大手企業のプロジェクトに参加し、高い技術を身に付ける事が出来る点も魅力的でした。

私は、将来この会社のような企業に入りたいと思っていたので、とても有意義な時間が過ごせました。

今後さらに知識や技術を磨き、これから始まる就職活動に向け頑張りたいです。とても良い経験になりました。



## ◆第2期実習を終えて

1年 総合福祉学科 小澤 伎

私は、第2期実習で障害者支援施設に行きました。すべてが初めてのことで、緊張と不安で思うように行動することができませんでした。入浴時の更衣介助では、片麻痺や拘縮の利用者様それぞれ、その方に合わせた介助の方法を覚えることが大変でした。患側がどこまで動くのか、自分でどこまでできるのか、どこまで介助が必要なのか、わからないことがたくさんありました。しかし、職員様が優しく、熱意を持って指導してください、とても多くの学びがありました。技術面は、最後にはオムツ交換も一人でできるようになりました。第1期実習後の課題だった利用者様とのかわりでは、オセロや輪投げなどのレクリエーションに参加するなかで、多くのコミュニケーションを図ることができました。

10日間を通して、特注の車椅子や文字盤を使ったコミュニケーションなど、障害者支援施設ならではの利用者様の生活をみる事ができ、とても充実した実習になりました。

第3期実習では、利用者様の情報を確認し、一歩先を考えながら動けるように頑張りたいと思います。



1年 介護福祉学科 又平 千央

今回は、別養護老人ホームで実習を行わせていただきました。

9月の「第1期実習」では、緊張してあいさつさえスムーズにできませんでした。今回の実習ではスムーズにコミュニケーションを図ることができました。さらに、生活支援では利用者様に合わせた支援を実践しました。これは、学校で学んだ「自立支援」ということです。「その人らしさ」を保つために自立支援を行うことはとても大切なことだと考えます。また、10日間というとても短い実習でしたが、名前を覚えていただいたり、会うたびに笑顔を見せてくださる利用者様ができました。それは私にとってとても嬉しく、「頑張る力」となりました。2年生になると25日間の一番長い実習があります。その実習に向け、まずは基本的な技術・知識を十分に身につけることを意識して学びたいと思います。そうすることで、利用者様に応じた個別支援ができる技術を目指したいと思っています。

## ◆保育実習を終えて

1年 子ども心理学科 富田 理紗子

今回の実習は2度目の保育実習でした。前回指摘された積極性と明るさを意識して取り組みました。積極的に子ども達の輪の中に入り、一緒に遊ぶようにしました。すると、子どもと同じ目線になって遊ぶ事で先生方の子どもへの援助や配慮が良く見えるようになり、多くの事を学ぶ事が出来ました。そして、学んだ事は、次の日に自分も真似て実践するようになりました。

また、今回は初めての部分実習がありました。とても緊張しましたが、今後の課題をたくさん見つける事が出来ました。反省会では多くの助言を頂きとても勉強になりました。その中でも「子どもの様子を観て判断する事が大切」という言葉が心に残っています。これは保育する上で常に意識している事が大切だと感じました。

今回の実習で得た反省と経験を糧にして、より良い保育者になるための勉強にさらに励んでいきたいと思っています。

2年 子ども心理学科 山本 夏季

2週間の保育実習が終わりました。この実習で学んだことは、子どもとの関わり方です。関わりを持ちたい、仲良くなりたいと焦るばかりに、こちらから声をかけすぎてしまったり、一方的に伝えただけで満足してしまったりしていました。現場の先生方は、子どもの話を聞くという受け身の姿勢を大切にしていました。子どもが話すこと、伝えたいことを聞き、その後に保育者の思いを伝えている場面もありました。

また、言葉の大切さも学ぶことができました。子どもが分かりやすい言葉を選んで話すような声かけをすること、声をかけすぎずに待つ見守ることも大切だと実感しました。次回の幼稚園教育実習に向け、今回の実習で学んだ貴重な経験を十分に活かして行けるよう、さらに幼児理解を深める学びをしていきたいと思っています。

